

自 平成27年4月 1日  
至 平成28年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成27年度

事業報告書



公益財団法人ハーモニィセンター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

電話 03-3469-7691

FAX 03-3469-7714

# 目 次

1. 概況	・・・	2
2. ポニークラブ®、動物広場、牧場等の運営及び受託管理	・・・	3
2－ 1 ポニーキャンプ®		
2－ 2 蓼科ポニー牧場事業実施状況		
2－ 3 相馬ポニー牧場事業実施状況		
2－ 4 小貝川ポニー牧場事業実施状況		
2－ 5 目黒区碑文谷公園こども動物広場事業実施状況		
2－ 6 葛飾区水元中央公園子ども動物広場事業実施状況		
2－ 7 相模原麻溝公園ふれあい動物広場事業実施状況		
2－ 8 万騎が原ちびっこ動物園事業実施状況		
2－ 9 板橋区こども動物園本園、高島平分園、昆虫公園事業実施状況		
2－10 上千葉砂原公園ふれあい動物広場業実施状況		
2－11 海老名ふれあい動物施設事業実施状況		
3 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	・・・	10
3－ 1 グランドポニースクール（新潟県長岡市）		
3－ 2 帯広畜大プロジェクト（仮称）		
3－ 3 治療的乗馬研究集会		
4 川べり環境の整備及び活用の推進並びに社会教育に必要な指導者の養成	・・・	11
4－ 1 カヤック教室・水辺でのプログラム		
4－ 2 河川騎馬パトロール		
5 国際文化交流、国際相互交流活動の推進	・・・	13
5－ 1 モンゴル国交流事業		
5－ 2 日独青少年相互交流計画2015		
6 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及	・・・	15
7 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	・・・	15
7－ 1 機関誌の発行		
7－ 2 夏キャンプ募集チラシの発行		
7－ 3 WEB広報		
8 その他	・・・	16
各種見直し、NPO法人ハーモニカレッジとの連携・協働に関する協定、馬の管理について、キャンプのWEB申込み状況、「ボクのポニーワタシのポニー」絵画コンクールの実施、「PONY RIDERS CUP 2015」写真展の実施、ハーモニィセンター写真展（ギャラリー銀座）開催、人材育成、長瀬げんきプラザ運営支援、会議等		

## 1. 概況

新体制に移行して3年目となる27年度は、過去2年の間にハード、ソフトの両面で準備、着手した取組みについて随時本格的に進める年とすることを目標に、今後の10年を見据え、安定した団体運営、これまで以上に踏み込んだ社会貢献実現のため、以下5つの取組みを具体的に取り組んだ。長年の蓄積の思い切った変革のため、調査と研究を行い、新たに明らかになったまったなしの即実行すべき課題にも積極的に着手した。

Riding for allの理念の下、ポニーを軸にした社会貢献活動の推進を願う人々、団体に対して優秀なポニー、事業運営、飼育のノウハウ等の提供を行い芽吹きつつある新たな活動の支援をおこなった。こうした実践活動に加え、各種学術会にも積極的に参加し、活動成果の発表、今後の活動拡大、普及への足がかりを訴えとともにネットワークづくりが進んだ。

### ☆ポニー（繋養馬）の更新と常設施設の開設・運営に対する積極的応援

繋養馬管理を担ってきた「馬管理委員会」を発展的に解消し、馬・ポニーの管理、子どもたち、利用者と馬・ポニーのより有効的なつながりを構築する「馬事部」を新設。100頭に迫る繋養馬の中の約30%を占める高齢馬の有効活用、効果的な移動と新規の馬の配置（購入、繁殖）を蓼科ポニー牧場を中心に実施した。蓼科では購入した種牡馬を一頭と23年4月誕生の雄馬（相模原動物広場産）の2頭を種にポニー牧場としては数年ぶりの繁殖を行った（28年4月現在1頭無事雌馬を出産）。さらに体高140cmクラスの若い馬を購入。小貝川ポニー牧場では小格馬を3頭購入。これに対し小貝川、葛飾に蓼科の主戦馬を移動させ、これまで以上の有効活用を目指した。会津、山元町での活動にもベテラン馬を譲渡、派遣し、新しい動きの支援を馬を通じて積極的に行った。

「馬を軸にしたと人と人とのつながりづくりを」の考えを推進するため「ポニーステイ」プログラムを構築。長野県伊那市伊那小学校の2年生が教師、保護者とともにこの事業に取り組んでいる。この後もぞくぞく要望が届きつつあり、全国に「ハーモニイの輪」「ポニーの輪」を広げる足掛かりになる予感を感じさせている。

### ☆蓼科ポニー牧場改修

26年度中に大まかな構想をたてた。27年度は改修に向けた具体的動きとして業者の選定（業者選定は中途）、正確な土地の調査等をおこなった。

### ☆外部研究者・機関との協同研究・発信

高齢者・障害者のための乗馬、様々な現場における馬の多様な利活用、に関し、全国乗馬倶楽部振興協会、帯広畜産大学はじめとする多くの大学・研究機関、日本治療的乗馬協会、動物介在教育・療法学会、シュタインフルト郡軽乗連盟等また、馬を軸にした学識者に協力を仰ぎ、調査・研究、発表、若年層への応援を行った。馬事普及に力を込め始めた日本中央競馬会との連携を深める足掛かりもつくることのできた。

### ☆会員規模の拡大に向けて

魅力ある活動参加の機会を増やすことはもとより、より多くの方にハーモニイセンターを知っていただき、その理念を理解いただくかを第一の目当にし、HPへの引き込み促進のためのブログの充実、機関誌の刷新、絵画コンクール、写真展などこれまでなかった取組みを行い、新しい層への働きかけを行った。

## 2. ポニークラブ®、動物広場、牧場等の運営及び受託管理

### 2-1 ポニーキャンプ®

#### ○計画との差異とその要因

夏のポニーキャンプはコースを増やすことで、昨年度同様高い参加率を得た。(7 キャンプ計 429 名/定員 70 名×7 キャンプ=490 名：88%) 冬のポニーキャンプに関しても昨年度以上の集客を記録した。(計 6 名増加。2 キャンプ合計 101 名/定員 80 名×2 キャンプ：63%)

スキーキャンプは雪不足の影響を受け、参加者減。会場変更により実施は出来たが、参加者は大幅に減った。(冬：昨年度 39 名→今年度 26 名) その他の外キャンプも奥秩父以外は昨年度より参加者減に終わった。(八ヶ岳：昨年度 15 名→今年度 11 名/小笠原：昨年度 10 名→今年度 9 名/奥秩父：昨年度 11 名→今年度 18 名)

告知のツールを再構築する必要を感じており、八ヶ岳キャンプに関しては山岳教室での告知をガイドさんに依頼、硫黄岳山荘でも告知協力を頂けることになった。今後野外の雑誌、ポータルサイト等への掲載を検討していきたい。

#### ○事業結果（詳細はデータ集参照）

長期キャンプ…学校の長期休業中（夏、冬、春）に実施したもの。

	キャンプ名	実施回数		泊数		参加者		カウンセラー		Jrカウンセラー	
		27	26	27	26	27	26	27	26	27	26
①	蓼科ポニー	14	15	41	43	623	645	163	189	28	9
②	小笠原	1	1	9	9	23	20	4	4	0	2
③	八ヶ岳登山	1	1	3	3	11	15	3	2	0	1
④	富士見スキー	2	2	9	9	73	64	10	13	3	0
27、26 年度計		18	19	62	64	724	744	180	208	31	12

#### 短期キャンプ…週末、連休に実施したもの（）内昨年比

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jr カウンセラー
①	蓼科ポニー	6(-1)	10(-2)		35	3
②	奥秩父野外	1	2	18(-7)	3(-1)	1(+1)
④	河口湖スケート	2	5	45(-4)	9(-1)	2(+2)
⑤	ファミリー(蓼科)	8(-1)	10(-1)	155	55	0
27 年度計		17(-2)	27(-3)	372	102	6
参考26年度		19	30	393	97	0

#### 受託キャンプ…コープトラベル、長岡市による募集で実施したもの（）内昨年比

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jr カウンセラー
①	コープ(蓼科)	11(-5)	30(-15)	96(-20)		
②	長岡っ子(蓼科)	1	3	42	10(+1)	9(-1)
27 年度計		12	33	138	10	9
参考26年度		17	48	158	7	10

#### 日帰りキャンプ…日帰りで実施したもの（）内昨年比

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jr カウンセラー
①	親子祭り(若洲海浜公園)	1	0	70(+20)	34(-16)	0
27 年度計		2	0	70	34	0
参考26年度		2	0	55	53	0

## 2-2 蓼科ポニー牧場

### ○宿泊団体の牧場利用

自由学園5年生の宿泊型学習体験旅行、大学のボランティア研修以外は週末受け入れ。カウンセラー・キャンプっ子OBのグループ利用が増加傾向にある。現役活動時の面識はなくとも「ハーモニィ」をキーワードにすぐ打ち解ける。SNSの普及も後押しとなっている。

全14回。参加者数は408名。

### ○日帰り団体の牧場利用

地域の障がい児グループ利用が4割。主催事業と重なると調整が必要。全8回。

### ○蓼科ジュニアポニークラブ (TJPC)

小1～中3が対象。高校生OBのボランティア参加可。月2回実施。年間を通じた活動の大半に父兄が関わる。地元中心ではあるが、東京からの参加者4名あり。レベル・内容の維持、保護者一丸となつての活動であることを考慮すると、定員30名が妥当な規模だと考えられる。(現在25名)月謝制¥5,500/1名。大会前練習等、活動日以外のレッスンも増加傾向にある。

計	述べ参加者数	行 事
24回	645名 保護者含む)	前後期保護者会(年間活動・役員選任) 八ヶ岳ホースショー(6名) 親子合宿(新潟能生海岸) 十和田キャンプ(5名) 与那国キャンプ(5名) ライダーズカップ(23名)

### ○その他

#### (ア) わんぱくポニー村(利用者数2,323人)

夏休み、春・秋の大型連休に合わせ、観光客を対象として蓼科湖畔にて引き馬乗馬と小動物ふれあい体験ができるミニ牧場を運営した。

今年度は工作コーナーを新たに用意し、動線や周りからの見え方を考えて全体の配置を変えた。

#### (イ) デイキャンプ(参加者数23人)

三井の森別荘を中心として呼びかけ、1日夏休みポニーキャンプ体験参加を受入れた。

#### (ウ) 第2回ポニーライダーズカップ(選手74名 述べ177鞍)

10月24・25日、昨年に続いて2回目の馬術競技会を開催した。企業協賛をいただき、子供達への目標を提示。

昨年比19名、48鞍増。鳥取・NPO法人ハーモニィカレッジからも参加。

#### (エ) 奏詞君プロジェクト

パラリンピック出場を目標に活動する吉越奏詞君の、全国障がい者馬術大会への参加を応援、4回の強化練習の指導とともに、参加馬匹の競技馬調教を実施した。

### ○施設改修(営繕)

アメリカンハウスの外壁塗装、室内壁紙の張替えを、食堂床の張替えを行った。

食堂及びアメリカンハウス入口のガラスを、安全対策として強化ガラスに入れ替えた。

\* 蓼科の改修に関しては、今後のキャンプのあり方、新拠点探し(場所選定・実施事業の内容・位置付け)と密接に関係するため、現在実施している事業に支障のある部分の補修・改修とは別に、長期的計画に沿って、資金計画と共に進めなければならない。

### ○まとめ

週末の利用は、ほぼ飽和状態といえる。更なる牧場の活用となるといかに平日の利用を促進するかという部分にかかるが、人手の確保が問題となる。

## 2-3 相馬ポニー牧場

### ○ポニーを中心とした事業活動

東北支援活動「子供たちに笑顔を贈る事業」を実施した。

延べ12会場 延べ利用者数 1,025名

支援活動から交流事業活動への転換

宮城県山元町で地域住民のコミュニティ再生プログラムを展開するNPO法人未来に向かって助け合い(本部 栃木県宇都宮市)の事業活動を賛助する形を取り、ポニーが仮設住宅生活で閉じこもり気味の地域の人たちの外への一歩を踏み出す機会を作るとともに、住民が今後災害復興公営住宅へ移転する際の新たなコミュニティ作りに寄与する取り組みを支援した。

27年度は、そのNPO法人が現地活動拠点を「山元夢ファーム」として5月3日にオープン、ポニー3頭による常駐型の交流事業を開始した。そのオープニングには、5月連休と重なり、ハーモニセンターの職員、ボランティアの支援を受け、たくさんの人にふれあい、乗馬を楽しんで頂けた。ポニーの利用者は3日間300名を数えた。

地元のポニー担当の人たちによる夏場の草刈えさ上げ、冬は人参農家の方の人参の葉の提供、また近隣の方のいろいろな野菜の差し入れなど、ポニーが居ることによる人の動き・交流は進んでいるように思える。週末は、ハーモニセンターの職員が出向き、ふれあい乗馬の指導などに取り組み、地元の子どもたちとポニーとのふれあいを進めた。

一方、仮設住宅から、災害復興公営住宅への移住が進み、地元ボランティアの方々はご自分の生活再建のために活動から離れることもあり、ポニー担当責任者を決めた活動が進められなかった。

### ○東北地区の市町村との連携による移動教室の実施

27年度も、南相馬市からの避難者の多い山形県鶴岡市で移動教室を実施。鶴岡市ボランティアセンターと同市大山地区桜まつり実行委員会の協力を得て行うことができた。

### ○仙台地区のカウンセラーとの連携及び研修活動を推進する。

鶴岡市での教室への参加、山元町での活動への参加があった。

また、亘理キャンプへのカウンセラーとしての参加。山元夢ファームへの行事活動への支援、山元町地元自治会主催の行事への支援にも参加して頂いた。

相馬ポニー牧場がボランティア活動の研修をして下さっていた人材がこれらの活動で連携していける方向が見えて来た。

## 2. 施設の利活用

### ○被災・避難動物受入れ団体への施設利用を継続した。

南相馬にゃんこハウスによる仮設住宅避難者の猫の保護活動等を支援した。

### ○南相馬市地域復興プログラムにおける除染物質の仮置き場として前年度に引き続き貸与した。

### ○地域の活動団体との連携による施設利用。

福島県浜通り地域における障害者のための施設再開が進まない中で、南相馬市内の通所施設運営団体の職員宿舎に貸与し、施設運営の側面的な支援を継続した。

## 2-4 小貝川ポニー牧場

### 1. 概況

11月に直撃を受けた台風18号により、小貝川の隣を流れる鬼怒川が決壊したことは地震や火事だけでなく、水害についても備える良い切っ掛けとなった。また、取手市総務部安全安心課と高齢福祉課の担当者を交えて、小貝川が決壊した事を想定した大型動物たちの避難経路と一時待避所(旧小文間小学校)について取り決めることが出来た。

乗馬レッスンや外乗、団体利用を場所不足、馬不足(出張と重なる場合)からお断りする事もあった「何に力点を置くか」という戦略よりも、「早い者勝ち」の利用予約の取り合いが行なわれた感があった。解決策としては馬場数を増やす、書き入れ時にカヤックや乗馬レッスンを任せられる職員を牧場に集めるというハード面と、運営方法に変化を付けるという二点が考

えられる。

\*老齢馬と新馬の入れ替えと、木曾馬2頭の預かり（3ヵ月）があった。職員が扱い慣れていない馬に接する切っ掛けとなった。

\*生き生きクラブ周りのウッドデッキの老朽とシロアリの為に危険な箇所が目立ってきた。取手市役所に相談し、ウッドデッキを撤去し、新たなデッキを作っていただいた。また、蹄洗場や道具置き場について、利用者の視線と安全面から整備を進めた。

## 2. 乗馬関連：

○25年度は503名だった引き馬の利用者は、26年度、倍の1,011名、27年度も1,405名と増加している。今年度更に人数が増加した理由と

しては、取手市が作成し無料配布した『るるぶ特別編集』に牧場が取り上げられ、新規の開拓に繋がり、そのままリピーターとして定着したと考えられる。毎週決まって訪れてくださる方から、月に数回と頻度は様々ではあるが、概ね20名程のファンが付いていると考えられる。

○団体利用の減少

天候不良、先約があった、出張業務と重なり馬がないなどの理由から、希望して下さった団体をお断りする事があり、レッスンなどが増えた分団体利用が減少した。

○馬場レッスン利用者（常連）の増加

総数では上記の天候不順で減ってはいるものの、これまで30名程の常連の方に牧場を利用して頂いてきたが、新規の方が月1回程度利用して下さる方が10名程増えた。

○ポニー教室参加者の増加

26年4月に7名だった在籍者が、27年度末23名にまで増加した。

28年度の新小学一年生のポニー教室への申し込み予約を複数名から頂いており、増加傾向は今しばらく続くと思われる。

増加した要因は、日々のプログラムに加え・担当職員の奮闘・チーム分けを明確に行うことで、子ども自身が目標を明確に持ちやすくなった・ライダーズカップや河川騎馬パトロール、MTBプログラムや餅つきプログラム、夏合宿などプログラムを積極的に打ち出し、保護者も巻き込みながらプログラムに参加して貰った事が要因要具と考える。

ブログ、口コミ、通りかかった方が足を止めてご覧になるなど、経緯は様々ではあるが、活気があるところに人が集まってきたと考えられる。

○その他

ポニースクール葛飾との合同合宿や、ライダーズカップなどを通して小貝川の認知度が高まっているように感じる。その為、子どもの利用が増えている。また、ポニー教室の保護者の方がレッスンを受けるようになったのも、ライダーズカップの影響があるかもしれない。

## 3. 移動乗馬教室/移動教室/移動動物園

全32回のうち、河川騎馬パトロールなどと重複している企画もあるが、新規としてはブログを見て申し込んで下さった海外乗や、他の獣医師会の方から26年度のプログラム（取手獣医師会）の評判を聞いてお申し込みいただいた土浦獣医師会の企画、ボーイスカウト、カウンセラーOB・OGの利用が挙げられる。企画が企画を呼ぶという良い循環に入っていると考える。

## 2-5 目黒区碑文谷公園こども動物広場

- 前年度と比較して、大きく入場者が減少したのは4月であった(約3600人減)。減少の要因としては雨天の日が多かったことだと考えられる。4月以外の月は大きく目立った増減はなかった。
- 5月31日に、32名のこどもボランティア(ポニー教室・動物クラブ)、40名のカウンセラーや地域のボランティアの方々の協力を得て開催したポニーまつりは、のべ5000人の来園者で賑わった。
- 従来エサあげ等が中心だったミニイベントの内容を見直し、バックヤードツアーや動物の解説、犬の芸の発表会など、「体験して学べる」ものを取り入れた。
- 蓼科で宿泊研修(1月4日～6日)、十和田ポニーキャンプ(2回目。8月3日～7日)、与那国島ポニーキャンプを実施した。
- 「見にくい」という指摘があった引き馬コースの案内看板を改良し、「開園中」「閉園しました」といった現在の園内の状況を表す表示も一新した。

## 2-6 葛飾区水元中央公園子ども動物広場

- 4月に「第2回 軽乗フェスティバル」を実施し、約150名の子供が参加。5月には、ルドガー氏、ナディン氏(軽乗コーチ)、ピアンカ氏(選手兼コーチ)を招き、子供達を対象に「軽乗講習会」の開催、衣装・小道具等、保護者の協力を得て「歓迎 軽乗大会」を実施。軽乗に対する認識が、一段と高まった一年となった。  
一方、9月1日から11月13日まで、改修工事のため休園(実際は12月10日に馬場の工事が始まった)となり、恒例行事(ポニー大運動会、軽乗フェスティバル)をやむを得ず休止した。

### (1) 軽乗出張演技披露

- 4月 「水元公園こどもまつり」：葛飾区主催
- 10月 長岡ポニーカーニバル：新潟県長岡市主催  
葛飾スポーツフェスティバル2015：葛飾区主催  
帯広畜産大学「馬フォーラム2015」：帯広畜産大学主催

### (2) 特別行事

- 4月 第2回 軽乗フェスティバル
- 5月 歓迎 軽乗大会  
軽乗講習会  
新入生保護者説明会
- 6月 区民誰でも乗馬会
- 8月 子どもまつり
- 12月 クリスマス音楽会、第14回皇居マラソン大会
- 1月 障害児乗馬教室少人数保護者懇談会
- 2月 区民誰でも乗馬会  
少人数新入生保護者懇談会  
\* 各家庭で子供達がポニースクールでの出来事をどの様に報告しているかを聞き、併せて保護者からの要望、質問を受け付ける。職員からは、乗馬練習の様子、ポニースクールでの生活態度(友達や職員との関わり方等)を報告し、問題点があればそれについて話し合いを行う。
- 3月 ポニースクールかつしか 卒業式

### (3) 特別活動

- ・「介護予防シニア乗馬」：葛飾区役所高齢者支援課より受託。葛飾区在住65歳以上の方が対象。毎月1回、3ヶ月単位で体操・乗馬練習に取り組む。(年3回実施)
- ・「ふれあいスクール明石」：葛飾区内の不登校児(小4～中3)が対象。月1回ポニースクールで、体操・馬房掃除・乗馬練習・手入れを行う。(月1回、年7回実施)
- ・「水元特別支援学校教員研修」：初年度教員が来場し、馬房掃除、乗馬体験、引き馬練習を行う(年1回)。
- ・合同軽乗講習会：弦巻スポーツ少年団(世田谷区馬事公苑)の子供達と、合同で軽乗練習を



行う。(年1回)

(4) 取材・雑誌掲載

- ・東京新聞：第2回軽乗フェスティバル取材
- ・「乗馬ライフ」：歓迎軽乗大会取材
- ・「乗馬ライフ 7/15号」：雑誌掲載

(5) その他

- ・「オール水元スポーツフェスタ」：水元地区が主催するスポーツイベントに依頼を受け年2回参加。
- ・「障害児乗馬チーム 軽乗見本演技チーム」：障害児の軽乗見本演技チームを結成（健常児の補助含）。葛飾区のイベントで演技を披露。(年2回)

## 2-7 相模原麻溝公園ふれあい動物広場

○指定管理者として再スタートし、2年目となる平成27年度は、冬季の利用者の増加傾向を強く実感できる年だった。ポニー乗馬の人気は昨年度並み（微増）であったが、小動物とのふれあいの人気は昨年度に引き続き高く、昨年度の利用者数を大きく上回った。

また、開場30周年（1985年開場）を記念し、春（4月）と秋（11月）のフェスティバルでは、動物広場の歴史や活動を紹介する展示会の実施と同時に、オリジナルグッズの制作・販売を行った。

新たな提案事業の開拓として、近隣施設とのコラボレーション企画に着手。相模川ふれあい科学館（アクアリウムさがみはら）の協力のもと、期間限定の水棲生物展示企画「すいちゅーどうぶつ広場」を実施した。また、人気の動物へのエサやり体験では、新たに「ビストロモーモー（牛のエサやり体験）」と「モンキーランチ（リスザルのエサやり体験）」を一年かけて試行。予てから利用者の要望として多かった「もっとエサやりを増やしてほしい」の声に応えることができ、新たな動物広場の楽しみ方を提供できたと同時に収入面の貢献もあった。

8月には動物広場独自の防災避難訓練を実施。これをきっかけに動物広場の防災マニュアル・安全管理マニュアルの修正を行なった。また、2月には近隣施設と合同で予防救急・救急車の適正利用について相模原市消防局救急課の職員を講師に招いての講習会に参加した。いずれも職員の危機管理意識の向上につながった。

(1) 各種プログラム

1. ポニー乗馬
2. 小動物とのふれあい
3. 身近に感じられる動物の展示
4. ポニー教室
5. 障害児ポニー教室
6. 子ども動物クラブ
7. 動物広場フェスティバル

【以下、指定管理者提案事業】

8. 子どもポニーボランティア
9. 親子二人乗り乗馬(引き馬)
10. 親子ポニー教室
11. 出張動物教室
12. さがみはらっこポニーキャンプ
13. 羊毛クラフト
14. 動物へのエサやり体験
15. 特別プログラム（雨天特別プログラム、大人のポニー乗馬など）

(2) 取材

テレビ取材2件、11月にテレビ神奈川「ありがとッ！」で広場紹介を放送、2月にJ:COM TV「デイリーニュース」でポニー教室活動紹介が放送された。新聞では読売新聞、神奈川新聞などで申年特別企画・リスザルといっしょ！(年賀状用写真撮影)の紹介記事が掲載された。その他、「るるぶ」「まっぷる」「あんふあん」などの遊び場紹介誌にも多数掲載された。

参考：相模原麻溝公園動物広場利用料収入比較

項目	27年度	26年度	備考
利用料収入	¥9,291,800	¥8,967,000	引き馬収入
提案事業収入	¥9,182,848	¥7,024,460	親子ポニー教室、ポニーボランティア活動等
動物広場収入	¥7,147,100	¥7,601,259	えさ販売、自販機収入等

## 2-8 万騎が原ちびっこ動物園

○横浜市立野毛山動物園の分園として長く市民に愛され、平成19年度より運営にあたって以来年々地域市民の利用数が増加し、27年度来園者数が、183,337人となった。

また、トラブル、クレームはなく野毛山動物園からの信頼も厚く、全面的な協力体制維持を頂いている状況であり、その他横浜市北部公園緑地事務所、横浜市体育協会などの関係各所とも良好な協力関係を構築できている。

その成果により、新たに28年度より向こう5か年(指定管理期間は10年)の契約を締結するに至った。

また、横浜市体育協会依頼の野外活動飼育体験キャンプ(27年度は7月、8月に2回計3回実施)で合計59名の子ども達が当動物園での飼育体験を行なった。

更に万騎が原ちびっこ動物園独自の真冬ミニイベントを実施(参加者数についてははデータ集を参照)し、計5回合計136名の参加者があり、小規模ではあるが家族連れ来園者にとっての憩いの場的な人気プログラムに成長している。

### ○真冬ミニイベント

気温低下・天候悪化等により来園者減少が予想される12月～2月の冬期にふれあいコーナーにて、動物に関する様々なプログラムを実施し来園者数維持と増加を狙い実施した。

注：以前(2・3年前)は、にわとり関連プログラムや来園者にバックヤード(飼育舎)紹介等のプログラムも実施していたが、本園である野毛山動物園より鳥インフルエンザ・施設内保安・保全・衛生面などの問題により、取り止め指示・指導があり現在は実施していない。

## 2-9 板橋区こども動物園本園、高島平分園

○板橋区より運営をまかされてから7年。この7年にハーモニセンターならではの雰囲気とプログラムを注入し、利用者の効用を高めるため力を尽くした。また、本園と分園でそれぞれの特徴をはっきり持たせることを目的とした期間でもありその効果が現れてきている。

本園の来園者は板橋区外からも多く(平日は常連の来園者が多い)、街中の小さな動物園というイメージから、穴場的テーマパークという感覚での遠方からの来園者も多くなった。ネットなどを通じてのPR効果はもちろんネット上の口コミ情報などの高評価も奏功し、来園者増につながった。10月のフェスティバルでは1万人を超える来園者があった。

分園は平日でも土日でも常連の来園者が多く、地域密着型となっている、も常連の来園者はスタッフとの会話、コミュニケーションを楽しみにしている方も多く、スタッフの励みにもなっている。

本園、分園共に事業の周知がされてきており、今後もそれぞれの規模、特徴にあった事業展開を板橋区と共に継続できるよう努めていく。30年度には本園全面改装工事が計画されており、この計画への協力も大いに期待されており、重要な役割と位置づけている。

## 2-10 上千葉砂原公園ふれあい動物広場

- 1年間、目立ったトラブルもなく運営することができた。出張動物園の依頼が増え、毎月のように実施している。(規約により月1度。25年度2回、26年度4回、27年度6回)  
区内中学生の職場体験が増加し、特に男子生徒の希望が多かった。(規約により月1度。26年度4回、27年度5回。年間25日受入)  
動物愛護クラブ、ポニー教室活動が年々活発になり、ハーモニセンターならではの活動が活性化している。

## 2-11 海老名ふれあい動物施設

- 海老名市以外の来園者が目立つようになった。圏央道の開通と雑誌等での紹介が増えた成果と考えている。地元での認知度が急激にふえ、プログラムが多様化した。

### (1) 障害児童対象お世話体験教室実施

26年度に開始された活動が好評だったため、本年度も継続して実施した。

海老名市内にある心身障害者施設の放課後デイサービスに通う小学生に運動公園に来てもらい、ポニーのブラッシング・乗馬・餌やり等を体験してもらうプログラム。

26年度同様、乗馬が困難である児童には馬車に対応し、何度か乗馬をして慣れている児童には速歩も体験してもらった。

27年度は全9回実施し、およそ30名の児童が参加した。

### (2) 年3回実施のポニーふれあい教室

毎年好評のポニーふれあい教室。

夏休み120名・冬休み60名・春休み60組(各回5日間)に実施し、夏と冬は小学生対象・春は未就学児を対象に親子教室を行なった。

今年度は夏休みの教室参加者は少なかったものの、冬休みの教室参加者が多く、毎年数名出る体調不良による欠席者も少なかった。

参加者の過半数を占めるリピーターの児童には、その児童の乗馬レベルに合わせて速歩や駈歩・少し難易度を上げた手綱操作練習等を実施。

初めて参加される児童やその保護者からも『また是非参加したい。』という言葉が多く頂いた。各回利用者アンケートを実施し、ニーズの確認と次回への課題づくりに生かした。

### (3) 年間行事に合わせて公園内でイベントを実施

26年度も行っていた、年間行事に合わせて行う公園内でのイベントを継続して実施した。チョコ・エビーとミルク・ビーナのバースデーイベント、クリスマスプレゼント、来年のカレンダーの配布、お正月ゲーム大会を実施した。

毎年正月にはその年の干支とポニーにちなんだ工作教室を実施していたが、年齢によっては工作が困難なこともあったため、27年度は年齢を問わず参加出来るゲーム大会(オリジナル景品付き)に変更したところ、参加者が急増し景品が足りなくなり、予定時間より終了時間を早める結果となった。

イベントは事前にポスターやfacebook、ホームページで告知していたこともあり、いずれも多くの利用者で賑わった。

特にバースデーイベントには海老名市長も駆け付けてくださり、大盛況だった。

## 3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

### 3-1 グランドポニースクール(新潟県長岡市)

- 9月10日から10月5日まで小学校、さいわいプラザ等15ヶ所を6頭のポニーとカウンセラー、スタッフで回り、小学生から高齢者まで、2064名にポニーとのふれあい、乗馬を体験していただいた。10月4日には恒例のポニーカーニバルが行なわれ、ポニースクールかつしかの子ども達が軽乗演技を披露した。

### 3-2 帯広畜大プロジェクト（仮称）

○昨年度に引き続き、障がい者乗馬、軽乗の講師として1年間、職員を派遣し以下の事業を実施した。

#### (1) 帯広市連携事業

昨年度に引き続き、障がい者乗馬（全14回）、不登校児対象の乗馬教室（全6回）、帯広少年院との連携事業（全2回）を行う。前年度より開催回数の増加。障がい者乗馬では定員を超える申し込みがあった。

#### (2) 大学行事

こちらも昨年度に引き続き、全1年生を対象とした全学農畜産実習乗馬体験（全12回）、家畜生産学乗馬実習（全3回）、馬を使用した獣医学実習（全6回）、オープンキャンパスに技術補佐員として参加。

10月には「ちくだい馬フォーラム」が開催され、今年度もかつしかポニースクールの子ども達を派遣し、軽乗演技を披露、畜大の学生も軽乗演技、流鏑馬を披露した。

#### (3) ドイツ軽乗講師派遣

馬フォーラムの他、オープンキャンパス、ばんえい競馬場でのドイツ人講師を招いての軽乗講習会、釧路で開かれた乗用馬競り市など、北海道で殆ど知られていない軽乗を披露する機会に恵まれた。

#### (4) 馬車

馬が怪我をしたため、大学との協議の結果、今年度の調教を断念した。

#### (5) その他事業

- ・豊頃小学校特別支援学級乗馬体験
- ・下音更小学校特別支援学級乗馬体験
- ・池田小学校特別支援学級乗馬体験
- ・帯広盲学校乗馬体験
- ・清水旭山学園乗馬体験
- ・シルバーシティ十勝おびひろ訪問
- ・サークル（うまぶ）を設立し、帯広市内の小中学生を対象とした乗馬会を7回開催

### 3-3 治療的乗馬研究集会

○特定非営利活動法人日本治療的乗馬協会が主催し、当団体を含め一般財団法人日本障害者乗馬協会、特定非営利活動法人RDA Japanの3団体が共催して、2月27日・28日に第11回「治療的乗馬」研究集会を開催した。その中の企画・運営に参画し、さらに馬の活用に関する調査報告も行った。

## 4. 川べり環境の整備及び活用の推進並びに社会教育に必要な指導者の養成

### 4-1 カヤック教室・水辺でのプログラム

○26年度はカヤックプログラムや水辺でのプログラムの度に、ポニースクール葛飾から応援を行い、準備から後片付けまで行ったが、本年度からは、小貝川職員が1名増員となったこともあり、応援要請をすることなく実施した。ただし、カヤックに関しては配属職員に専門家がいなかったため、ハーモニーセンター評議員であり、NPO法人川に学ぶ体験協議会に依頼し、カヤックの講習を平日の午前中に企画した。

また、プログラム自体は盛況（毎回定員超え）で、25年度・26年度に比べて回数としては1/3の開催だったにもかかわらず、参加者は半数に迫る効率の良さが目立った。

10月のウェルネスフェスティバルの2日目に開催されたEボート大会は、例年通りNPO小貝川プロジェクト21の皆さんと連携を取りながら開催した。災害を意識して10名乗りのEボートの操船技術向上を楽しみながら行う本プログラムは、他県からも参加者が来るなど大いに盛り上がりを見せた。

#### 4-2 河川騎馬パトロール

○昨年度行った河内町でのプログラムについては継続しつつ、回数を増やした。また、河内町の子ども達と小貝川の子ども達との相互交流を実施させ、子ども同士で教えあう体験を企画した。  
鹿嶋市青少年育成市民会議に、霞ヶ浦の脇での乗馬体験と河川騎馬パトロールについて話す会を提案し、42名の参加があった。

1月16日、荒川上流河川事務所西浦和出張所にて国土交通省が企画する河川協力団体の活動発表会及び意見交換会に参加。各河川協力団体が活動内容を発表する会だったが、その席に於いて「河川騎馬パトロール」についての取り組みを発表した。既にご存知の方も多く、活動が成果を現し始めたと感じている。

#### 4-3 指導者の養成

○社会教育を行う指導者の養成として、職員研修を多種行った。研修は、職員による内部研修を7回実施し、延べ80名の職員が参加した。  
中堅～ベテラン職員にそれぞれの得意分野を生かす形で講師を依頼、講師側にもいい刺激になった。今後、中堅以上の職員の研修機会を設け、個々人の新たな目標・課題設定につなげられるようにしたい。  
また、夏休み期間中（一部冬期）に全事業所において防災・避難訓練を実施した。事業参加者の協力を得ながら、緊急時対応を実践形式で行うことにより、机上での展開予想とは違う状況を発見できたり、避難誘導の実地確認を行うことができた。職員、参加者の防災意識向上にも役立った。

##### (1) 指導者養成のための内部研修会

No.	日 程	研 修 名	会 場	参加者数
1	5/25	新人職員対象接遇	国立青少年センター	12
2	6/29	乗馬研修（入門編）	碑文谷	10
3	7/6	乗馬研修（入門編・外乗）	小貝川	10
4	7/13	小動物飼育の基礎知識	上千葉	3
5	7/27	馬との関わり方講習①	葛飾	9
5	8/24	馬との関わり方講習②	葛飾	11
6	11/9	乗馬研修（入門編：スタッフ乗馬会）	相模原	7
7	11/16	乗馬研修（入門編：大人の軽乗講座）	葛飾	8
8	12/14	馬との関わり方講習③	葛飾	10

##### (2) 外部研修等への参加は以下の通り。

No.	日 程	研 修 名	参加者数
1	5/28～28	防火管理者講習	1
2	6/15	上級救命講習	1
3	6/15	RAC 主催安全対策研修会	1
4	6/16	初級救命講習	1
5	6/24	動物取扱責任者講習	1
5	7/1	上級救命講習	1
6	7/11・12	海の自然体験活動リーダー養成セミナー	1
7	7/17	上級救命講習	2

8	9/17	動物取扱責任者講習	1
9	9/30	安全運転管理者講習	
10	11/4	上級救命講習	2
11	11/6	接遇研修	1
12	12/2	馬飼養衛生管理技術講習	1
平成 28 年			
1	1/28	動物管理責任者講習	1
2	2/17	馬飼養衛生管理技術講習会	3
3	2/18	馬飼養衛生基礎技術講習	
4	2/24	動物管理責任者講習	4
5	3/7	食品衛生責任者養成講習会	1

※RAC：川に学ぶ体験活動協議会

## 5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

### 5-1 モンゴル国交流事業（モンゴル大草原乗馬交流）

○現地草原は今年5月～7月上旬まで、草原が黄色く変色するなど雨量が少なく、心配されていた。その後7月中旬からの集中した雨により、N1コースが始まるまでには、青々とした草原が回復し、草花が咲き誇り、馬も草を十分食べられ最後まで元気に走り切っていた。

- (1) 各コース、7泊8日、3コースを実施。午前2時間、午後2時間半、乗馬力に応じて一日2～30kmの草原外乗練習。初心者は常歩（1日目）、軽速歩・（2、3日目）を中心とした基礎練習。最終日までには長い駆歩を楽しめるまでになっていた。
- (2) 終始心地よい草原の風にふかれ、壮大な景色の中、草をはむ数百頭の羊の群れ、馬の放牧を眺めながら、途中遊牧民宅での休憩ありの乗馬は、モンゴルならではの醍醐味となった。
- (3) 各コースとも昨年に続き人気のあった往路35キロ先の冷泉保養所にむけた1泊2日の外乗体験を実施。途中草花の生い茂るいくつもの山越え、ミニ砂漠、広がる草原を味わいながらモンゴルの大自然を満喫。
- (4) N3コースに、6年目となる「ナーダム子ども競馬・遊牧民生活体験コース」を併設し8人（小5～小6）が参加。4泊の遊牧民生活で交流を深め、競馬の手ほどきを受け往復35kmの競馬に挑戦。53頭中最高位2位と健闘した。

#### (5) 参加者数

コース名	日程	参加者数
N1コース	7月21日～28日	5
N2コース	7月28日～8月4日	5
N3コース	8月4日～8月11日	16
N4コース	8月11日～18日	9

参加者計 34人

※N：成田発着 モンゴル航空の事情で、7、8月の関空発着便はなし。

### 5-2 日独青少年相互交流計画2015

#### ○事業総括

参加者が伸び悩み9名の参加に留まった。しかしドイツ側受け入れ体制は、大変充実したものであった。過去交流参加経験のあるドイツの若者達が多数参加し、これまで以上に交流が活発に行われた。プログラムだけでなく受け入れ学生との交流が参加者にとって違った価値観の人とふれあうことで積極性、多角的な物事の見方、ホスピタリティを強く養える機会となった。

#### ○今後の展望

近年は、ドイツからの派遣者数に比べて日本からの派遣者数が少なく、今後の望ましい継続のためには、カウンセラーやジュニアカウンセラーへの呼びかけ、ブログやSNS、広場での広報、「国際～学部」のある大学への告知、ドイツ交流に関心のありそうな新たなパートナーの発掘、国際交流事業を行っている団体との関係の構築など、あらゆる手立てを実行し、日本側参加者を増やしていく。また、12月にドイツで行われた本事業25周年記念式典には、開始当初から受入時・派遣時共に中心となって事業を進めてくださっている板垣幸寿さん、本間純子さん（当会評議員）が招待を受け、これに柏木代表理事、野島業務執行理事が同行し、ドイツ側関係者と共に未来の25年を考える貴重な時間を共有できた。

#### (1) 夏の派遣

実施期間	平成27年8月15日～28日（13泊14日）
参加者数	日本側10名（スタッフ1名、参加者9名）ドイツ側20名程度
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会議事堂見学</li> <li>・ホームステイ</li> <li>・学校見学</li> <li>・ベルリン・北海へ</li> <li>・自由行動（乗馬、サッカー観戦、買い物等）</li> </ul>

#### (2) 4月の指導者招聘

2012年、14年（いずれも3月）に行われた「日独乗馬交流」において、現地ラドベルゲン軽乗クラブで指導を受け、大変有意義な軽乗のノウハウ、技術を学び、持ち帰る事ができた。おかげでドイツスタイルの軽乗をさらに深めながら、これまでのレベルを飛躍的に向上させることになった。

このことから「乗馬交流」事業に参加できなかった多くの子どもたち、各地の軽乗に関心のある人たちにも、直接指導を受けられる機会を作り、一層の軽乗の普及をはかっていく事を目的に、現地ラドベルゲンから、トレーナーの招聘を行った。

各地で直接指導、講習会、デモンストレーションなどを行い、日本での「日独軽乗交流」事業となった。

- ・ 招聘者
  - ①ナディン・フェルマン 39才  
（ドイツ ラドベルゲン軽乗クラブトレーナー）
  - ②ピアンカ・ナウバー 22才  
（大学生 同上 選手兼ジュニア・トレーナー）
  - ③ルドガー・フォンディック 55才  
ドイツ シュタインフルト郡青少年局指導者 引率
- ・ 期 間 2015年4月26日～5月7日
- ・ 概 要 軽乗講習会（ポニースクールかつしか、帯広ばんえい競馬場ふれあい広場）  
軽乗大会指導と審査、軽乗演技、小貝川牧場見学、観光見物（スカイツリー、相撲部屋、浅草 鎌倉 明治神宮 他）  
ハーモニセンター関係者との交流会  
帯広老人ホーム訪問交流  
ホームステイ交流 2泊  
その他

#### (3) 日独乗馬交流

シュタインフルト郡ラドベルゲン馬術連盟、軽乗連盟の協力を受け、ドイツの歴史ある馬の文化にどっぷり浸りつつ、子ども達はドイツ式軽乗訓練を、大人チームはドイツ馬騎乗、外乗

中心プログラムを満喫した。

「馬」「乗馬」を通して互いに交流を深め、日本ドイツ相互交流計画の今後への歩みを推進する計画となった。

実施期間	平成28年3月26日～4月5日（10泊11日）
参加者数	日本側19名（スタッフ4名、参加者14名）ドイツ側10名程度
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗馬、軽乗トレーニング</li> <li>・バーレンドルフ国営馬術トレーニングセンター見学</li> <li>・ホームステイ、イースター体験</li> <li>・ミュンスターなど観光（ミュージアム見学、修道院視察）</li> <li>・その他（テコンドー体験、サイクリング、買い物等）</li> </ul>

## 6. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及

○子ども、青年層ばかりでなく、高齢者や障害者のための乗馬、様々な立場の方々に提供できかつ、馬の多様な利活用に関し、帯広畜産大学、日本獣医生命科学大学、日本大学はじめとする多くの大学・研究機関、全国乗馬倶楽部振興協会、日本治療的乗馬協会、動物介在療法学会、シュタインフルト郡軽乗連盟等また、民間では藤沢育成会など、馬を軸にした活動者、学識者に協力を仰ぎ、調査・研究、発表、若年層への応援などを行った。2020オリンピック、パラリンピックを見据え、馬事普及に力を込め始めた日本中央競馬会との連携を深める足掛かりもつくることのできた。

職員、ボランティアが日本治療的乗馬協会、動物介在療法学会などの学術的取り組みに積極的に参加し、活動発表を行ったり、会のお手伝いをしながら成果の普及と今後を深く考える機会をもった。

魅力ある活動参加の機会を増やすことはもとより、様々な会やネットワークに参加することは、多くの方に当財団の活動とその理念を知っていただくことに繋がり調査・研究の普及に貢献した。

## 7. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

### 7-1 機関誌の発行

「THE HARMONY CENTER」の発行

○2013年に公益財団法人へ移行してから、紙媒体の情報誌は年4回発行の「季刊誌」へ変更した。季刊誌としては5回発行したが、旧来のような月刊紙を希望する声が、ハーモニーセンターを応援して下さる方々から多く上がり、月刊紙へ変更した。その際、タブロイド版よりも大きな紙面（1面がA3サイズ）に刷新し、全面カラー印刷となった。

以下、発行機関紙記録

発行月（27年度）	発行部数（部）	備考
4月	1,500	季刊誌
8月	1,500	季刊誌
9・10月	1,500	月刊誌に。A3サイズにリニューアル
11月	1,500	
12月	1,500	
1月	1,300	
2月	1,500	
3月	1,500	

### 7-2 夏キャンプ募集チラシの発行



○2015年の夏キャンプの募集形式については、キャンプ情報誌「Campal」の発行から、各種キャンプや牧場の事業ごとに「チラシ」形式で案内を作成した。これは、ニーズにあわせた印刷部数を設定しやすいこと、また増刷する場合も、必要な事業についてのみ増刷ができること、店頭などに設置しやすいことなどを考慮して、実施した。作成の詳細については以下の通り。

- ① 蓼科ポニー牧場・・・通常営業案内および夏季予約受付、わんぱくポニー村の営業案内
- ② 小貝川ポニー牧場・・・通常営業案内および「小貝川カヤック教室」の営業案内
- ③ 蓼科ポニーキャンプ・・・ポニーキャンプの案内
- ④ 外キャンプ・・・小笠原キャンプと八ヶ岳縦走キャンプの案内
- ⑤ 国際交流・・・日独青少年相互交流（派遣）およびモンゴル乗馬トレッキング案内

### 7-3 WEB広報

#### (1) Facebook

手軽に更新・情報発信できる利便性を活かして情報発信に努めた。今後はHPへの誘導を最優先とした運営を考えたい。また、ブログを運営していない事業所「海老名動物ふれあい施設」のFacebook活用が目覚しかった。

#### (2) ブログの運営

事業所単位では、特にポニースクールかつしか、相模原麻溝公園動物広場の更新率が高く、毎日の出来事、子ども達の様子、事業の進捗などが細かに記されていた。他事業所での定期更新について一層の促進指導が必要であると考えた。

#### (3) ホームページ

新旧ホームページを統一以後、閲覧しやすい構成を再構築。新年度からの運営を目指す。ホームページからの事業申込み（現在のところキャンプ、ドイツ中心）が全体の8割近くになり時代、希望者ニーズに応えた対応が進んでいる。

## 8. その他

### 8-1 各種見直し

#### (1) 規程

大人数が関わる組織を運営する上で、ルールの整備は避けて通れないところだが、当会は永らくこの点を軽視してきてしまった。このことの反省に立ち、9月、外部専門家（公益法人アドバイザー他）の力を借りて、定款を初め、就業規則その他の規程整備、会計処理ルールを改定した。このことにより、永年の懸案であった「全事業所を同じルールの下に運営する。」第一歩を踏み出した。併せて、各事業所の勤務実態を調査し、職員の労働状況の整備を進めた。得に定められた年間休暇の取得、勤務時間の遵守を徹底した。

#### (2) 保険

危険を伴う野外体験が活動の中心となる当会にとって、参加者、カウンセラー・ボランティア、職員が安心して活動に取り組むためには保険加入は必須である。財団法人時代より加入していた損害保険（傷害保険、賠償責任保険）、自動車保険、火災保険の見直しをし、より実際の活動に沿った形で無駄のない新たな設計の保険契約を結んだ。

職員の死亡保障、退職金積立のための生命保険加入についても同様に見直し、新たな契約を結んだ。

#### (3) リース物件等整備による無駄の排除

これまで、自動車、事務機器など、日常業務に必要な物件の購入・リース契約の多くは各事業所毎で行ってきたが、このことによる無駄を排除、機器等の効率的な活用を図るため、代々木事

業所での一括管理、契約し直しに着手した。

## 8-2 NPO法人ハーモニカレッジとの連携・協働に関する協定締結

10月24日、ポニーライダーズカップの初日夜、来賓・参加者・役員が見守る中、NPO法人ハーモニカレッジとの「連携・協働に関する協定」を締結した。この協定に従い、今後、人・馬の相互交流を積極的に行ってゆくこととなった。

## 8-3 馬の管理について

繋養馬管理を担ってきた「馬管理委員会」を発展的に解消し、馬・ポニーの管理、子ども達や他利用者と馬・ポニーのより有効かつ効果的な利活用を構築推進する「馬事部」を新設。繋養場の特性、年齢、資質、効果、求められる用途等を熟慮し、配置転換、新規購入等を行った。同時に繁殖活動を蓼科ポニー牧場で再開させ成功させた。

財団所有馬88頭・行政（板橋区・海老名市）より預託馬6頭。25歳を超える高齢馬9頭を売却・譲渡。1歳～6歳の若馬6頭を購入。

ポニーステイ事業として、長野県伊那市立伊那小学校に小格馬シルフィードを貸与中。

## 8-4 キャンプのWEB申込み状況

2014年冬キャンプより導入したキャンプのWEB申込は、2015年度において一層の定着をみた。利用率についてはWEB申込が電話受付を上回る数字となっている。

（2015年 WEB受付利用率：56%、電話利用率44%）

## 8-5 「ボクのポニーワタシのポニー」絵画コンクールの実施

公益財団法人公益推進協会の助成金「夢屋基金」の助成を受け、5歳から中学3年生までを対象に「ポニー」を題材にした絵画コンクールを実施。ハーモニセンターの機関紙配布先の開拓手段として、広く呼びかけた。結果187通の応募作品があり、11月にオリンピックセンターカルチャー棟で応募作品展を、28年1月には世田谷区にあるJRA馬事公苑のギャラリーをお借りして、入賞作品の展示会を行なった。

## 8-6 「PONY RIDERS CUP 2015」写真展の実施

28年1月に、上記展示会と同時開催で、2015年10月に行なわれた「PONY RIDE RSCUP 2015」の写真展を開催した。

## 8-7 ハーモニセンター写真展（ギャラリー銀座）開催

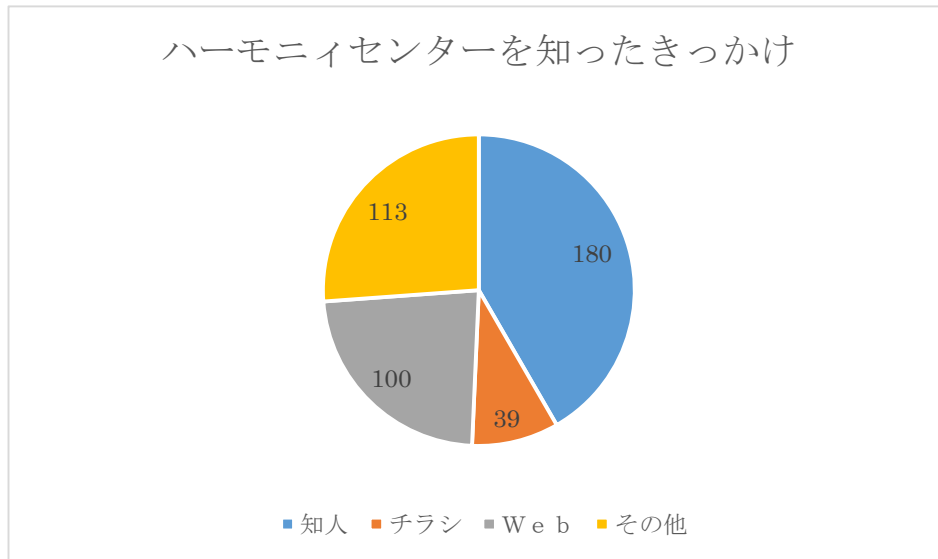
28年2月15日から21日の1週間、東京都中央区にある「ギャラリー銀座」において、ハーモニセンター写真展を開催。創設時から現在までの55年の歴史を、写真パネルで展開。多くのカウンセラーOB・OG、関係者の方、自治体関係者が来場された。会期中の延べ参加人数は131名。

### 【会員獲得のための方策】

こうした写真展等の実施は、これまであまり関わりのなかった層にもハーモニセンターの存在を知っていただき、入会に繋げることを目的の一つとしているが、事業への参加同意書に添付したアンケートによれば、「ハーモニセンターを知ったきっかけ」は以下のとおりである。

（27年8月から28年3月に実施。回答数429。複数回答あり）

## ハーモニイセンターを知ったきっかけ



\*「その他」は「親が元参加者」「雑誌で見た」「実際の事業(移動動物教室など)を見た」など。従来通り「知人、口コミ」が多いことは予想されたが、やはり質の高い活動が新たな入会につながることを再認識すると共に、口コミの半数を超えるWeb(ホームページ、ブログ等)にも併せて力を入れる必要性がわかる。

また、「キャンプに行くことがなくなったから退会する」という退会理由を払拭するためにも、新たな活動機会の創出が求められる。

### 8-8 人材育成(ボランティア)

○カウンセラー育成については、研修は回数を減らし、一回の参加人数増やし効率をあげるということを目指した。昨年度よりは参加者も増え、効率的にできたと思うが、来年度以降、より効率的に実施していきたい。

夏前にリスクマネジメントの観点から普通救命救急講習会を実施した。(10名参加)スキルアップと共に、有資格者を有することで団体の安全へのアピールにもなる。今後も継続して実施して行きたい。また、今年度もSAN(Socia Active Network of outdoor education: 野外教育に携わる団体の中堅スタッフによる任意団体: 山本所属)の企画にも参加。新しいスキルを得ると共に、モチベーションにも繋がった様子。今後も積極的に外部の研修にも参加させていきたい。

○課題、将来展望としては、夏キャンプの質を保つためにも夏前の蓼科での研修に多くの新人カウンセラーが参加するように促していくことが必要。カウンセラーの説明会でも推して参加を促していく。今後たくさんの職員が引率をする中で、いかにコミュニケーションを図り、質を保って行くかが今後の課題となる。

#### (1) ポニーキャンプカウンセラー募集

カウンセラーの募集は昨年度と同様にホームページを中心に行った。大学生のライフスタイルに合わせ、小規模説明会を5、6月の間に5回、11月に1回、2月に1回実施。加えて麻布大学(3名登録)、日本大学(23名登録)、恵泉女学園での訪問説明会を実施。また動物専門学校(日本ペット&アニマル専門学校(1名登録)、中央動物専門学校(6名登録)、国際動物専門学校(26名登録)での訪問説明会も実施した。

(2) インターネット募集情報掲載: アクティボ、ボランティアプラットフォーム、Yahoo ボランティア

(3) 大学・専門学校募集ポスター掲示 (72校掲示依頼→72校掲示承諾)

小規模説明会は間口を広げるため冬前、春前も1回ずつ実施。カンセラーの登録に繋がった。またインターネットではアクティボでの募集を開始。大学での訪問説明会は1校増やし、ポスター掲示も8校増。登録自体は昨年より39名増加した。

(4) 活動カウンセラー数 (28年3月時点)

継続登録者数	新登録者数	合計
80	163	243

## 8-9 長瀬げんきプラザ運営支援

○長瀬教育振興グループの一員として、埼玉県立青少年教育施設である長瀬げんきプラザの運営に参画し、運営会議でハーモニセンターの施設管理、プログラム実施等に関するノウハウを提供した。

今年度、28年度からの新しい指定期間にはいるための事業提案(プロポーザル)を行ったが、11月4日発注元である埼玉県教育委員会より「次点」の連絡があり、28年度からの5年間の当施設の運営はできないこととなった。7年間共同企業体として運営を共にしてきた「長瀬教育振興グループ」は解散した。

## 8-10 会議等

○理事会・評議員会の開催は以下のとおり

- (1) 第1回理事会 (5/23)
  1. 平成25年度決算書の修正について
  2. 平成26年度事業報告案、収支決算案について
  3. 役員改選について
- (2) 第2回理事会 (6/24)
  1. 代表理事・業務執行理事選定について
  2. 常勤理事、非常勤理事の確定とその報酬、及び監事手当について
- (3) 第3回理事会 (7/4)
  1. 大野幸男氏雇用の件
  2. 代表理事2名役員報酬決定の件
  3. 組織改編の件
- (4) 第4回理事会 (11/2)
  1. 臨時評議員会開催について
  2. 定款の改定について
  3. 評議員会運営規則の改定について
  4. 理事会運営規則の改定について
- (5) 定時評議員会 (6/13)
  1. 平成25年度正味財産増減計算書内訳表の修正について
  2. 平成26年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認について
  3. 役員の改選について
- (6) 臨時評議員会 (6/21)
  1. 役員の改選について
- (7) 臨時評議員会 (7/18)
  1. 役員の構成について
  2. 役員等報酬について
- (8) 臨時評議員会 (11/4)
  1. 定款の改定について
  2. 評議員会運営規則の改定について
  3. 役員等報酬規程改定の進捗状況について

#### 4. 相馬について

○執行役員会の開催は以下のとおり

7/4、7/16、7/25、8/20、8/27、9/4、10/8、11/4、11/11、11/25、12/16、12/23、1/6、1/13、1/20、2/3

○職員会合の開催は以下のとおり

職員総会（9/7）、新年互礼会（1/18）、部長会議（11/17、12/14、1/26、2/8）、場長会議（12/22）、馬管理委員会（8/11）

#### 【会員数】

2014年実績 賛助会員A 445世帯 1,454名  
賛助会員B 37名  
団体会員 1団体

2015年実績 賛助会員A 533世帯 1,716名  
賛助会員B 35名  
団体会員 1団体

(いずれも3/31の数字)